

# 平成29年度 京都市予算案 事業概要

交 通 局

事務事業名	今後10年間の新たな「経営ビジョン」の策定着手		
予 算 額	6,000千円	新規・継続の別	新規
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担 当 課	企画総務部 総務課(863-5031)		
<p><b>〔事業実施に至る経過・背景など〕</b></p> <p>本市地下鉄事業は、経営健全化計画に基づき、平成30年度までの経営健全化団体からの脱却を目指し、増収・増客、コスト削減等を柱に取組を推進しており、1日当たりのお客様数目標37万5千人の達成が確実に見通せる等、経営の健全化は着実に進ちょくしている。しかしながら、地下鉄事業は、未だ多額の企業債等残高や累積資金不足を抱え、全国一厳しい経営状況であり、今後も間断なく経営健全化を推進する必要がある。</p> <p>一方、市バス事業は、平成26年度決算において、一般会計からの任意補助金に頼らない自立経営を実現した。今後も、黒字基調を堅持しながら、周辺地域を含めたバス待ち環境の改善等、サービスの向上を一層推進していく必要がある。</p> <p><b>〔事業概要〕</b></p> <p>市バス・地下鉄両事業について、健全経営を確保したうえで、計画的に事業を運営していくため、今後10年間の計画期間とする「経営ビジョン」を平成30年度中に策定する。</p> <p>平成29年度は、市バス・地下鉄の御利用状況について、抽出による調査を実施するとともに、様々な見地から御意見をいただくため有識者会議を設置し、市バス・地下鉄の健全経営の確保のための取組や、安全対策、利便性向上策等、市バス・地下鉄事業において、今後中長期的に取り組むべき施策等の検討を行う。</p>			
<p><b>〔参 考（他都市の状況・事業効果など）〕</b></p>			

# 平成29年度 京都市予算案 事業概要

交 通 局

事務事業名	市バス・京都バス一日乗車券カードの価格適正化及び京都観光一日乗車券等の値下げに着手		
予 算 額	152,280千円	新規・継続の別	新規
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担 当 課	営業推進室(863-5061)		
<p><b>【事業実施に至る経過・背景など】</b></p> <p>市バスの一乗車券カード（一日カード）は、平成12年に700円から500円に大幅に値下げして以降、平成26年の消費税率引上げに伴う市バス運賃の改定時も発売価格を据え置き、現在に至っており、市バスの均一運賃区間拡大による利用範囲の拡大や、京都バスの均一運賃区間路線での利用開始等、利便性向上が進む中、普通運賃（230円）に比べ、価格のアンバランスが一層拡大している。</p> <p>また、平成12年度に100万枚であった一日カードの発売枚数は、平成23年度で372万枚、平成27年度には614万枚と突出して増加する一方、市バス・地下鉄全線及び一部民間バス等で利用可能な京都観光一日乗車券等の発売枚数は、平成23年度は48万枚、平成27年度は49万枚とほぼ横ばいとなっており、この間、観光客の御利用が市バスに集中している状況となっている。</p> <p><b>【事業概要】</b></p> <p>お客様に“上手に”市バス・地下鉄を御利用いただき、より快適に市内を移動していただくことを目的に、外部有識者等の御意見を伺いながら、一日カードの価格適正化及び京都観光一日乗車券等の価格値下げの平成29年度中の実施に向け、バス車載機等のシステム改修を行う。</p>			
<p><b>【参 考（他都市の状況・事業効果など）】</b></p>			

# 平成29年度 京都市予算案 事業概要

交 通 局

事務事業名	市バスの混雑緩和に向けた「前乗り後降り」方式の検討着手		
予 算 額	10,000千円	新規・継続の別	新規
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担 当 課	自動車部 運輸課(863-5123)		
<p><b>〔事業実施に至る経過・背景など〕</b>                  京都市では、これまでから、市バスの路線・ダイヤを充実させる等、積極的に利便性向上に取り組んでおり、御利用の多い主要系統については、近年、混雑緩和を目的とした増便等を実施してきた。</p> <p>しかしながら、観光客や市民の皆さまの御利用が集中する一部の系統においては、車内の混雑が激しく、特に観光地を結ぶ系統においてその傾向が顕著であり、混雑緩和による車内の快適性の向上が課題となっている。</p> <p>市バスは、均一運賃区間と乗車距離に応じた運賃設定の調整区間が混在しているため、降車時に運賃を収受する「後乗り前降り」方式としているが、乗車口のある車両中央から降車口である車両前方にかけて車内が混雑する傾向にある。</p> <p><b>〔事業概要〕</b>                  近年、乗車時に運賃を収受することが可能な均一運賃区間が拡大してきていることも踏まえ、車内の快適性の向上を図るため、車内前方及び後方の双方から降車の動線が確保でき、混雑緩和が期待される「前乗り後降り」方式の導入に向け、平成29年度は、外部有識者等の御意見も伺いながら、実証実験を行うなど、具体的な検討に着手する。</p>			
〔参 考（他都市の状況・事業効果など）〕			

# 平成29年度 京都市予算案 事業概要

交 通 局

事務事業名	安全運転訓練車の導入など 市バスの安全運行の推進		
予 算 額	109,754千円	新規・継続の別	新規
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担 当 課	自動車部 運輸課(863-5123), 技術課(863-5153)		
<p><b>【事業実施に至る経過・背景など】</b> 京都市では、輸送の安全は交通事業者の最大の責務であるとの認識のもと、ソフト面では、各市バス運転士のキャリアや運転特性に応じたきめ細かな安全運転研修、ハード面では、市バス車両のヘッドライトのLED化など、安全運行を徹底するための様々な取組を推進している。</p> <p><b>【事業概要】</b> 平成29年度は、有責事故件数の更なる削減のため、新たに、安全運転訓練車を導入し、安全運転研修の充実を図るほか、新型車椅子固定ベルトの導入、前方確認補助のための車外ミラーの増設及び車両路肩灯のLED化などに取り組み、市バス車両設備の安全性を向上させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 <b>有責事故件数の削減に向けた安全運転訓練車の導入（42,819千円）【新規】</b> 運転中の運転士が目線や運転操作を計測・記録する機器を搭載した「安全運転訓練車」を導入し、客観的な計測データに基づいて、運転技術向上に向けた指導を行う。</li> <li>2 <b>新型車椅子固定ベルトの導入（37,878千円）【新規】</b> 車椅子を御利用のお客様の安全性向上のため、巻取りやロックを自動で行える新型の車椅子固定ベルトを、全市バス車両に導入する。</li> <li>3 <b>前方確認補助のための車外ミラー増設（20,529千円）【新規】</b> 降車直後の利用者や横断中の歩行者の安全確認を徹底するため、構造上設置できない車両を除く全市バス車両の車外に、発進時の前方確認を補助する右アンダーミラーを増設する。</li> <li>4 <b>車両路肩灯のLED化（8,528千円）【新規】</b> 夜間運行時の視認性を向上させ、自転車等の巻き込みを防止するため、全市バス車両の路肩灯をLED化する。</li> </ol>			
【参 考（他都市の状況・事業効果など）】			

# 平成29年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	車内モニターの増設及び案内情報の4箇国語対応など市バスのお客様サービスの向上		
予算額	146,612千円	新規・継続の別	新規・継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担当課	自動車部 運輸課(863-5123), 技術課(863-5153)		
<p><b>[事業実施に至る経過・背景など]</b> 京都市では、市バスを快適に御利用いただくため、これまでから、スマートフォン対応ホームページの開設など、国内外のお客様への分かり易い情報発信に向けた取組を推進している。近年、順調にお客様数が増加する中、より一層きめ細かな案内が求められている。</p> <p><b>[事業概要]</b> 平成29年度は、市民・観光客の皆様への情報発信を更に強化するため、新たに、市バス車内モニターの増設及び案内情報の4箇国語対応や、京都駅前バスターミナルにおける4箇国語での運行情報等の発信に取り組むとともに、京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”の活動を充実する。</p> <p><b>1 車内モニターの増設及び案内情報の4箇国語対応（93,172千円）【新規】</b> 現在、車両前方にて停留所名などを表示している「車内案内モニター」について、新たに、平成29年度からの3年間で、車内後方からも見やすくなるよう、全ての大型車両の中央部に増設するとともに、モニター上に表示する情報を、これまでの2箇国語表示（日・英）から4箇国語表示（日・英・中・韓）へ変更する。 平成29年度は、219両について、モニターの増設及び表示言語の追加を行う。</p> <p><b>2 京都駅前バスターミナルにおける4箇国語での運行情報等の発信（19,440千円）【新規】</b> 京都駅前バスターミナルの各市バスのりばにモニターを設置し、新たに、運賃や車内でのマナーをはじめとする市バスの乗車方法、祭礼やイベント時の交通規制に伴う市バスの運行経路の変更など、きめ細かな情報を4箇国語（日・英・中・韓）で発信する。</p> <p><b>3 京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”の活動充実（34,000千円）【充実】</b> 語学に堪能なスタッフがきめ細やかな交通・観光案内を行う、京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”について、平成29年度は、<u>年間の活動日数を概ね倍増（80日間程度→160日間程度）</u>して、<u>全ての土休日に京都駅前バスターミナルで活動する</u>など、より多くのお客様に“おもてなし”の心に溢れたお客様サービスを提供する。</p>			
[参 考（他都市の状況・事業効果など）]			

# 平成29年度 京都市予算案 事業概要

交 通 局

事務事業名	魅力あるバス待ち環境の創出		
予 算 額	117,468千円	新規・継続の別	新規・継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担 当 課	自動車部 技術課 (863-5154)		
<p><b>[事業実施に至る経過・背景など]</b>                  京都市では、バスを待たれるお客様へ快適なバス待ち環境を提供するため、バス停への上屋、ベンチ及びバス接近表示器の設置を推進することはもとより、歩道が狭いなどの理由からバス停設備の設置が困難な場所においても、地域や民間事業者の皆様との御協力のもと、バス停に近接する土地等を無償で提供していただき、バス待ちスペース「バスの駅」を設置している。</p> <p><b>[事業概要]</b>                  平成29年度は、市内周辺部を中心に上屋の整備に取り組むとともに、バス停の視認性等を高めるため、ソーラー式バス停照明の設置に集中的に取り組む。また、バス接近表示器の更なる増設に向けた調査検討等を行う。</p> <p><b>1 周辺部等におけるバス停上屋の整備及びリニューアル(88,030千円)【充実】</b>                  バス停上屋については、民間活力を導入し、主に市内中心部において広告付き上屋の整備を推進してきた。平成29年度は、引き続き、民間事業者による広告付き上屋の整備を推進するとともに、交通局が周辺部等への上屋の整備を25箇所で行うほか、<u>老朽化の進んだテント式上屋を20箇所リニューアルする。</u></p> <p><b>2 ソーラー式バス停照明の設置(11,048千円)【充実】</b>                  バス停照明については、電源の確保が困難なバス停における夜間の視認性及び安全性を向上させるため、ソーラー式バス停照明の設置を進めてきた(平成25年度～27年度で計90箇所、平成28年度は100箇所設置予定)。平成29年度は、<u>設置スピードを更に加速し、150箇所のバス停に設置する。</u></p> <p><b>3 バス接近表示器の設置及び更なる増設に向けた調査検討(18,390千円)【新規】</b>                  バス接近表示器については、インターネット環境を活用した新たな方式を採用することで、平成26年度から大幅な増設に取り組んでおり、平成28年度中に、電源が確保されているなどの要件を満たす全てのバス停への設置を完了する。平成29年度は、新たに条件が整ったバス停に速やかに設置するとともに、更なる増設に向けた方策について、調査・検討を行う。</p>			
[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]			



# 平成29年度 京都市予算案 事業概要

交 通 局

事務事業名	車掌用モニター設備の増設など地下鉄の安全対策の強化		
予 算 額	31,123千円	新規・継続の別	新規
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担 当 課	高速鉄道部 運輸課（863-5223）， 高速車両課（863-5263），電気課（863-5275）		
<p><b>【事業実施に至る経過・背景など】</b> 京都市地下鉄では、これまでから、烏丸線の主要3駅への可動式ホーム柵の設置のほか、可動式ホーム柵未設置駅のホーム端への注意喚起ラインの設置、駅出入口への止水板の設置による浸水対策の強化など、地下鉄の安全対策に継続的に取り組んでいる。近年、お客様の増加に伴い、ホーム上及び車内が以前と比べて混雑しているため、扉を閉める際の安全確認をより一層徹底するなど安全対策を強化する必要がある。</p> <p><b>【事業概要】</b> 平成29年度は、扉挟み等の事故防止対策として、車掌用モニターをホームに増設するとともに、車内における車両扉への指詰め事故防止策として、烏丸線・東西線の全車両の扉の端の全面に黄色のテープを貼り、お客様へ指詰めの注意喚起の強化を図る。</p> <p><b>1 烏丸線ホーム車掌用モニター設備の増設（22,000千円）【新規】</b> 烏丸線の可動式ホーム柵未設置駅のうち、お客様数が多く、ホームで混雑が目立つ北大路駅・今出川駅・丸太町駅などの6駅において、車掌の目視確認を補完するため、平成29年度からの4年間で、順次、モニターを増設する。 平成29年度は、北大路駅2番線、今出川駅1番線へモニターを設置する。</p> <p><b>2 車両扉への指詰め警告テープの設置（9,123千円）【新規】</b> これまで実施してきた、扉付近への「指詰め注意」啓発ステッカーの貼付に加え、平成29年度は、新たに、烏丸線・東西線の全車両の扉の端の全面に黄色のテープを設置し、より扉の端を目立たせることで、お客様へ指詰めの注意喚起の強化を図る。</p>			
<p><b>【参 考（他都市の状況・事業効果など）】</b> 車両扉への指詰め警告テープの設置は、JR西日本、近鉄、京阪、阪神等の私鉄で同様の取組を実施中。</p>			



（設置後のイメージ）

# 平成29年度 京都市予算案 事業概要

交 通 局

事務事業名	朝夕の通勤・通学時間帯における烏丸線の増便など 地下鉄のお客様サービスの向上		
予 算 額	271,459千円	新規・継続の別	新規・継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担 当 課	高速鉄道部 運輸課(863-5224), 高速車両課(863-5263)		
<p><b>[事業実施に至る経過・背景など]</b>            近年順調に地下鉄のお客様数が増加している中、烏丸線の一部時間帯において非常に混雑が生じている。また、急増している外国からのお客様を含め、全てのお客様により便利かつ快適に地下鉄を御利用いただけるよう、分かり易いマナー啓発や案内表示の必要性が高まっている。</p> <p><b>[事業概要]</b>            平成29年度は、地下鉄の利便性・快適性の向上のため、平日朝夕の通勤・通学時間帯における烏丸線の増便を実施するとともに、優先座席エリアのリニューアル、車内案内表示装置等の4箇国語対応を実施する。</p> <p><b>1 朝夕の通勤・通学時間帯における地下鉄烏丸線の増便【新規】</b>            烏丸線において、御利用者の増加により混雑している状況を緩和するため、平日朝夕の通勤・通学時間帯に、合計4便(往復)の増便を実施する(平成30年3月目途)。</p> <p><b>2 優先座席エリアのリニューアル(41,247千円)【新規】</b>            優先座席を必要とされるお客様が、これまで以上に御利用いただきやすくなるよう、烏丸線及び東西線の全車両において、優先座席前の床面に「優先座席エリア」であることを明示するステッカーを貼付する。さらに、優先座席上部の吊手を従来の白色から目を引きやすい色へ変更するとともに、吊手の高さを引き下げる。</p> <p><b>3 車内案内表示装置等の4箇国語対応の推進(230,212千円)【継続】</b>            車両更新時期が近い烏丸線車両9編成を除く全車両(28編成)において、設備更新の機会等を捉え、平成29年度から32年度の4年間で、車内の案内表示装置及び車外の行先表示装置を4箇国語(日・英・中・韓)表示が可能な機器へと更新(一部新設)する。平成29年度は、烏丸線5編成及び東西線4編成の計9編成の更新を行う。</p>			
[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]			